



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2020年  
1月20日  
発行

## 第13回 「2020年のびっくり10大予想」

### 初めに

私は昨年から西村証券に所属していますが、以前に所属していた会社では毎年年末年始に「10サプライズ」というレポートを作成していました。これはその年に起こりそうな想定外の出来事を予想するもので、米大手証券モルガンスタンレーのエコノミスト、バイロン・ウィーン氏が始めたものです。ウィーン氏は「サプライズ」を「一般には1/3の生起確率しかないと思われるが、自分にとっては50%以上である事象」と定義していますが、私は「比較的可能性が高いリスクシナリオ」位の気持ちで作っています。所属する会社が変わったので心機一転名前も変更させていただきますが、これからも10サプライズ、改め「びっくり10大予想」をよろしく願います。

### 2020年のびっくり10大予想

その1	米大統領選では民主党候補が勝利、トランプ落選を好感して株式市場は大幅高。
その2	グレタ・トゥーンベリ氏がノーベル平和賞を受賞、環境関連株が買われる。
その3	格差是正に本腰。米国で企業向け、富裕層向け税制見直しの機運高まる。
その4	黒星続きで習近平主席の求心力が低下、中国外交は協調路線に転じ、香港株、台湾株が上昇。
その5	FRBが利上げに転換、ECBも緩和縮小、世界的な金融緩和に変化の兆し。
その6	日銀がETF買付を縮小。日本の株式市場正常化が評価され、株価は上昇。
その7	忘れた頃の円安。ドル円は、1ドル115円に。
その8	やっぱり自己資本も大事、株式による資金調達復活。
その9	「麟麒がくる」で滋賀ブーム。滋賀県関連株が買われる。
その10	カット野菜ブームでマヨネーズ関連株が上昇。

2枚目(裏面)へ続く

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。

### その1 米大統領選では民主党候補が勝利、トランプ落選を好感して株式市場は大幅高。

一般的に次期大統領選は接戦ないしはトランプ有利の見方が多いと思いますが、当レポートは一貫してトランプ氏の再選はなく、それで株価は上昇するとの見方です。詳しくはこれまでのウィークリーレポートをご参照ください。なお次期大統領には民主党のエリザベス・ウォーレン上院議員が有力と考えています。

### その2 グレタ・トゥーンベリ氏がノーベル平和賞を受賞、環境関連株が買われる。

台風や山火事、温暖化に対する危機感は、昨年一年で大きく高まりました。今年のノーベル平和賞はスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリ氏が受賞。株式市場では電気自動車や風力発電など環境関連株が買われると予想します。

### その3 格差是正に本腰。米国で企業向け、富裕層向け税制見直しの機運高まる。

マイクロソフトの創業者、ビル・ゲイツ氏は昨年末、自身のブログで米政府は労働所得への課税に過度に依存しており、株式など資産課税を重くすることを主張しました。このように米国で貧富の格差が深刻になっており、その是正のために企業や富裕層の増税を求める声が出てきています。今年は格差是正が本格化、法人税増税などが真剣に論じられる可能性もあると見ていますが、こうした動きは短期的には株式市場にマイナスでも、長期的には社会の安定を通じてプラスになると考えています。

### その4 黒星続きで習近平主席の求心力が低下、中国外交は協調路線に転じ、香港株、台湾株が上昇。

2019年は習主席にとって、香港のデモや米国との貿易戦争など苦い1年になりました。2020年には習氏の求心力が低下し、対外協調路線を唱える勢力が台頭することがあるかもしれません。その場合は香港株、台湾株の大幅上昇を期待します。

### その5 FRBが利上げに転換、ECBも緩和縮小、世界的な金融緩和に変化の兆し。

トランプ氏の圧力がなければFRBは利上げに転じても不思議ではなく、欧州では昨年末に不動産価格の上昇を理由にスウェーデン中銀が政策金利を引き上げています。

### その6 日銀がETF買付を縮小。日本の株式市場正常化が評価され、株価は上昇。

効果があるのかないのか分からない日銀のETF購入。市場原理を歪めるとの批判があり、日銀は購入額の段階的な縮小に踏み切ります。結果的にはこれが好感され、この場合日経平均は28,000円までの上昇を見込みます。

### その7 忘れた頃の円安。ドル円は、1ドル115円に。

このところ変動が小さくなり、投資家の関心が薄らいできた印象があるドル円レートですが、今年はFRBの利上げなどから逆に変動が高まってもおかしくありません。1ドル115円までの円安も有り得ると見えています。

### その8 やっぱり自己資本も大事、株式による資金調達が復活。

世界的な低金利もあり、ここ数年企業の資金調達は債券によるものが主流でした。しかし金利の先高感などから、今年は株式による資金調達が復活する可能性があると思います。やはり、債券と株式のバランスが大切でしょう。

### その9 「麒麟がくる」で滋賀ブーム。滋賀県関連株が買われる。

今年の大河ドラマは、「麒麟がくる」。久しぶりの戦国時代ということで視聴者の期待も高いと思います。舞台となる滋賀県に観光客が増加、滋賀県関連株が買われることもありそうです。ちなみに私は、鮎ずしを食べてみたいです。

### その10 カット野菜ブームでマヨネーズ関連株が上昇。

働き方改革に伴って、手軽に食べられる「カット野菜」の人气が上昇しています。野菜と言えばマヨネーズを扱う食品メーカーの業績も好調なようです。今年はマヨネーズ関連株に注目しています。ちなみに、私はマヨネーズは使いません。